第６回地方独立行政法人名張市立病院評価委員会　議事要旨

日時：令和７年７月１０日（木）１５：００～１７：００
場所：名張市防災センター２階　防災研修室
出席者：（委員）伊藤委員長、森岡委員、江藤委員、時枝委員、和田委員
（事務局）出江副市長、田中総務部長、中木屋福祉子ども部長、藤井病院長、
登内顧問、吉岡副院長、大北事務局長、中西理事、辻川総務企画室長、
瀧本総務企画室係長、吉岡総務企画室主任
傍聴者：計６名

議題	発言者	内容
地域医療連携部門の強化について	和田委員	現在の地域医療連携部門の体制と強化目標とする体制を具体的に記載されてはどうか。
	大北事務局長	再編に向けた院内協議を現在行っている。他部署とのバランスがあるため、地域医療連携部門を特化して記載すべきかの判断は難しい。
	和田委員	地域医療連携部門は、クリニックの窓口という非常に重要な部門である。さらに、入退院支援などのベッドコントロールなどの役割もあることから、しっかり書いた方クリニックの先生方は安心されるのではないか。そこに拘るということないが、今の体制を少なくとも倍くらいにするなどの計画を聞きたい。
	吉岡副院長	現在の体制は１０名体制。更なる強化を目的にワーキンググループを設置し検討を行っている最中である。
看護師確保について	江藤委員	看護師確保に向けた計画がきちんと記載されているので、如何に実行に移すかというところである。
	和田委員	看護師の確保に向けた財政的支援（授業料免除や補助金）など、現在の名張市の仕組みはどうか。
	大北事務局長	名張市には、修学資金貸与制度があり、看護師離職問題発生以降、金額を２万円から５万円に増額し貸付を行っている。今の修学資金の制度としては、名張市立

		専門学校を例とすると、就学期間にあたる３年間、名張市内の医療機関に勤務した場合には返済が免除されることになっている。それ以外については、一旦返還という対応になる。
	伊藤委員長	医師というよりもむしろ看護師不足が病院のボトルネックのような感じになっている。看護師確保は非常に大事なところになる。
	和田委員	看護師確保は市立病院に来る実習生を如何に大事に扱うかということが非常に重要である。実習期間中に市立病院の印象が決まってしまうので、あまり厳しいことを言わないことが良いと思う。
	江藤委員	学校の先輩から後輩の就職へ繋ぐという循環の法則は絶対にある。実習生に対して優しくというより、先輩たちが良い看護を見せることが重要。
患者満足度について	和田委員	患者満足度が８０パーセントでは、まだ低い。限りなく目標なので高い値を狙った方が良い。
	伊藤委員長	かなり頑張って上げていただいたと思うが、これ以上になるように頑張って欲しい。
クリニカルパスについて	和田委員	クリニカルパスの適用件数ではなく適用率（パーセント）の方が良いのではないか。
	大北事務局長	適用率は出している。疾患ごとの入院患者の適用率は分母分子の関係で一定数上がるが、全入院患者の適用率になると逆に下がる。
	江藤委員	クリニカルパスは、診療科ごとに取扱う疾患の中の上位数疾患のものを作るパターンが一番多い。患者サービスの側面から、クリニカルパスと併せて同じ数の患者用のクリニカルパスを作って欲しい。
	大北事務局長	患者用のクリニカルパスは、入院診療計画書の代わりになるので、セットで作っている。

市民に対する積極的な情報発信について	時枝委員 伊藤委員長	「名張市立病院ブランドの創造」とあるが、病院側が、そのブランドを訴え、市民からの評価を得て成立するもの。市民に認知されるまでには、相当の時間がかかると思う。このような観点から、広報に対する一つのアイデアとして、市と連携して病院の良い事例を定期的に宣伝や発表をして欲しい。 広報の仕方については、大変大事なところになるので、しっかりと受け止めて欲しい。
ハラスメント委員会の設置について	和田委員 大北事務局長 時枝委員 大北事務局長	被害者が訴えれば全部ハラスメントになるということはおかしいと思う。訴えた者勝ちになってはいけないので、内部人材だけでなく外部人材を入れたハラスメントの仕分けができる仕組みの構築が必要である。 市が設置したハラスメント委員会という組織で公平に取り扱っているが、今後は、法人独自で第三者などを入れた組織を設置する方向で考えている。 ペイシェント・ハラスメントは、問題になっていないのか。 医療機関なので、ある程度の言動に対しては、対応しているが、度を越えた言動で心を痛めてしまう職員はいる。この問題については、中期計画（案）の９ページ「医療安全対策の徹底」のところで「患者等のハラスメント対策」を記載している。
名張市立看護専門学校の充実と強化いついて	伊藤委員長 江藤委員	「名張市立病院への就職者数」は、大幅に増員されている。市立病院の機能を上げるためには、看護師確保は非常に大事。目標に近づけるようお願いしたい。 卒業者数も大事ですが、入学者数を如何に確保するかという点も大事である。
収支の改善について	和田委員	「病床稼働率」の目標値７０パーセントでは、経営の黒字化には、程遠い率である。理由は、看護師確保が難しいということか。

	大北事務局長	令和６年度の病床稼働率が６７パーセントであり、令和７年度は、５９パーセントからスタートとなっている。かなり低い値からのスタートということでご理解をいただきたい。
	和田委員	どのような病気の方が市外の医療機関に行っているのかという情報の把握は、国保の情報等から分析できる。そういった情報等も手に入れて、色々とご検討いただきたい。
	大北事務局長	以前の「在り方検討委員会」の時に調査を実施している。特に「がん」は、大学病院等との中継地点としての役割を果たすため、集約していくことを目指している。
資金計画について	伊藤委員長	最初の期間の経営は厳しいが、徐々に改善うる仕組みになっているが、法人の債務は、中期目標期間の終了時には１９億円になるという理解で良いか。
	大北事務局長	「中期目標の期間を超える債務負担」は、２８ページ下段にある一覧表の「次期以降償還額」の合計額にあたる。法人化前の債務が少し残っているので、第２期に残す債務の合計額は２０億円くらいになる。
	伊藤委員長	債務負担としては、圧縮されるということか。
	大北事務局長	建設時の償還をしていた時と比べると段違いに少ない金額になる。
	伊藤委員長	最初は厳しいと思うが、収支を改善していくよう一生懸命に頑張ってもらうしかない。
全体を通しての評価委員からのメッセージ	伊藤委員長	看護師確保（離職対策）に関する私の考えは、「明るい職場づくり」だと思う。厳しくても理事長先生や院長先生などの先生方が、明るく、リーダーシップを発揮され、笑顔で患者さんにも夢を持っていただけるよう、一緒になって医療を行う姿勢。そういった一面を見せることで、仕事が辛いから辞めていくというより

		は、気持ちの持ち方という一つの大きな核の部分が随分違ってくるのではないかと思う。 法人化を一つの節目として、前向きに頑張っていただきたい。
	森岡委員	市民と市立病院との間に少し壁や溝があるように感じる。市民は、「市立病院がどのようなことに取り組んでいるのか」を意外に知らない。市立病院の中身について、広報の記事を大きく設けるなど、市民に伝わるような工夫をして欲しい。
	時枝委員	今後、限られたお金と人材で運営していくことになる。職員のモチベーションが最重要事項であるという意識で中期計画を推進して欲しい。また、市民は、中期計画を推進することの応援団である。応援団はたくさんいるので、そういった気持ちで推進していただきたい。
	和田委員	中期計画を現実なものにしていくためには、ＰＤＣＡサイクルが非常に重要。計画倒れにならないよう、計画を実現するためにプロジェクトチームなど組織内で推進体制を作っていただきたい。